

2

第2章

甲府市の観光の近況

01 | 甲府市の地域資源とエリア別の整理

(1) 甲府市の地域資源

① まちの近くにある山と自然

本市は、南に富士山、北に八ヶ岳、西に南アルプスと、周囲を美しい山々に囲まれた盆地で、市街地に近接する森林・低山や、溪谷美の御嶽昇仙峡、2500m級の金峰山など、初心者から本格登山者まで楽しめる山々がまちの近くにあります。

また、「信玄の湯 湯村温泉」をはじめとした良質な温泉資源があり、市民だけでなく、山歩きを楽しむ人々の心と体を癒しています。

② 甲府ジュエリーと伝統工芸

本市は、企画・デザインから原料調達、宝石の研磨・彫刻、貴金属加工、流通まで、ジュエリーづくりの全工程が一つのまちにそろって、世界的にも珍しい集積産地で、ジュエリーを購入だけでなく、工房見学や研磨体験などもできます。

また、鹿革に漆で模様を付けた甲州印伝をはじめ、甲州水晶貴石細工や甲州手彫印章など熟練の職人が手がけた伝統工芸品に触れることができます。

③ 地域に根付いた食文化

本市は、日本ワイン発祥の地と言われており、歴史あるワイナリーで見学や試飲を楽しむことができます。また、武田信玄の陣中食であったと伝えられるほうとうをはじめ、ご当地グルメで有名な甲府鳥もつ煮などの郷土料理もあり、日々の生活や歴史と深く結びついた多様な食文化が楽しめます。

④ 美味しい農産物・収穫体験

盆地特有の気候条件と長年培われた栽培技術を背景に、高品質な果実や農作物が生産されています。特産品であるぶどう、もも、すもも、なす、スイートコーン、いちごをはじめ、生産する様々な野菜や加工品などは地域の直売所で購入でき、また農産物を活かした収穫体験も楽しめます。

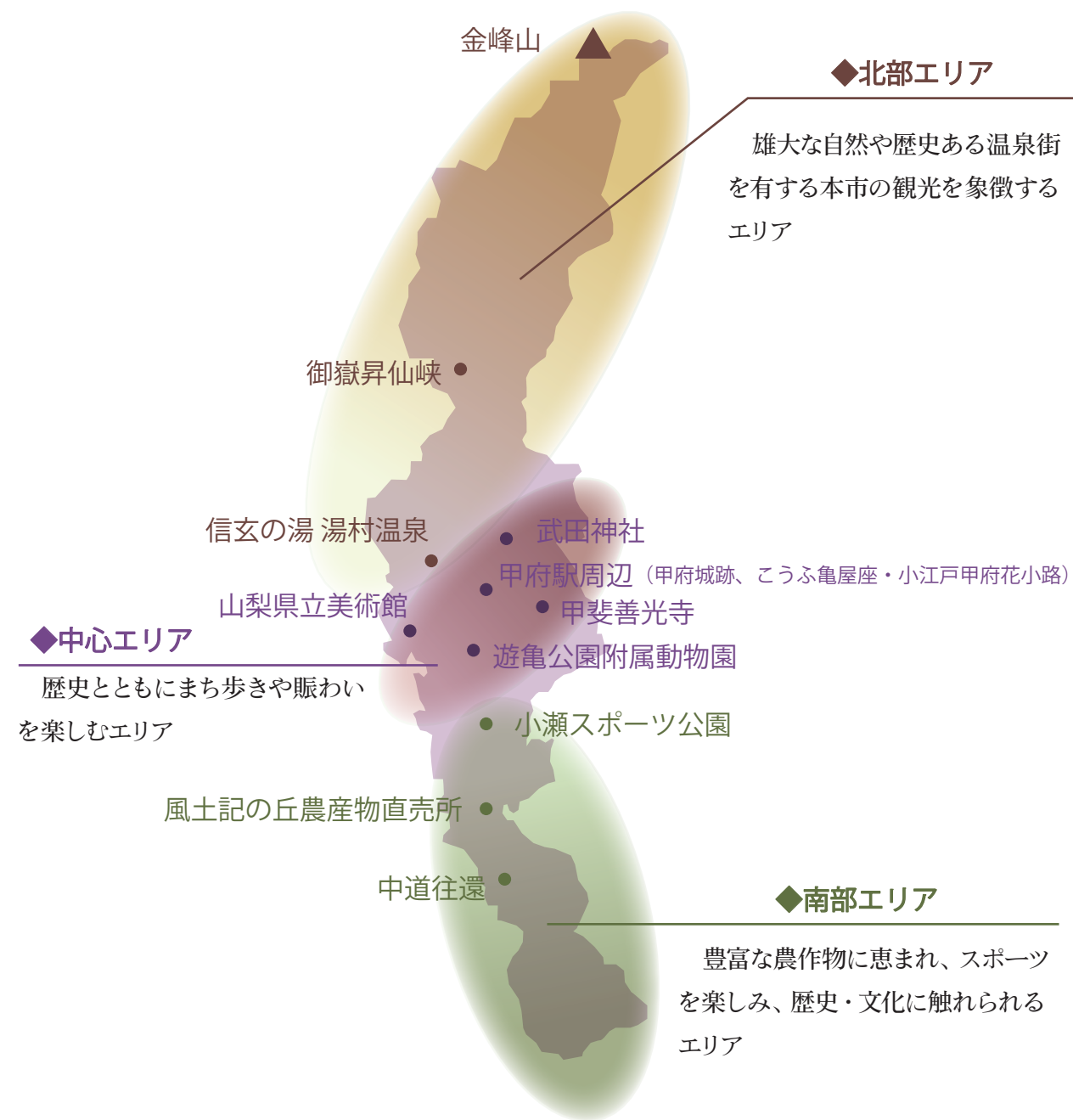


地域資源

(2) エリア別の地域資源の整理

本市は、四方を山々に囲まれた甲府盆地の中心に位置し、北には御嶽昇仙峡を擁する秩父山地（甲武信ユネスコエコパーク※3）、東・南には御坂山地から富士山方面へと連なる山なみ、西には南アルプスの前衛の山が広がるなど、「山の都」として特徴的な地形環境を有しています。

本計画では、南北に細長いという本市ならではの地形を観光振興に活かすため、市域を「北部エリア」「中心エリア」「南部エリア」に区分し、それぞれが有する地域資源の特徴と魅力を整理します。



※3：甲武信ユネスコエコパーク

ユネスコにより国際的に認定された生物圏保存地域として、生態系の保全と持続可能な利活用の調査を目的とする取組が行われる甲武信ヶ岳、金峰山、雲取山等の日本百名山に挙げられる山々が連なる奥秩父主稜を中心とした、荒川、多摩川、富士川（笛吹川）、信濃川（千曲川）源流部及びその周辺を含む一都三県にまたがるエリア

北部エリア

雄大な自然や歴史ある温泉街を有する 本市の観光を象徴するエリア

■御嶽昇仙峡の覚円峰

北部エリアは、国の特別名勝・日本遺産に認定されている「御嶽昇仙峡」を中心に、本市を代表する自然豊かなエリアです。奇岩や溪谷、奥秩父の山なみなど、迫力ある景観が訪れる人を魅了します。

また、古くから山岳信仰や巡礼の道として親しまれてきた古道などの歴史を有し、自然と信仰が結びついた文化が今も受け継がれています。水晶を起源とした宝飾文化をはじめ、森林や溪谷を活かした散策やアクティビティといった体験型の観光など、多様な魅力が重なっています。

さらに、本市唯一の温泉街である「信玄の湯 湯村温泉」を擁し、豊かな自然を満喫した後に温泉街で滞在できる環境が整っています。近年は民間事業者による再開発事業も進んでおり、滞在型観光の拠点として、今後さらなる魅力の向上が期待されます。

主な観光資源

御嶽昇仙峡
信玄の湯 湯村温泉
金峰山
金櫻神社
緑が丘スポーツ公園

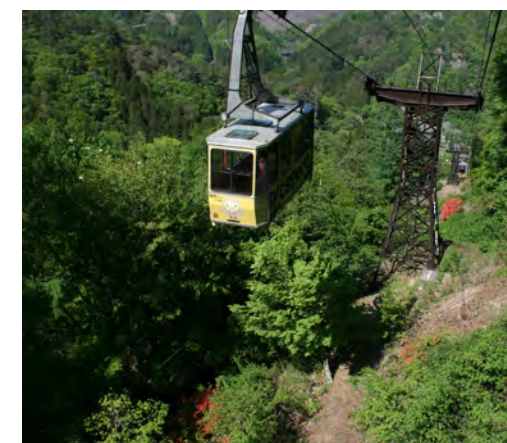
① 御嶽昇仙峡

御嶽昇仙峡は、本市の最北部、荒川上流に広がる日本有数の溪谷で、長い年月をかけて花崗岩と清流が織りなした断崖、奇岩、滝が連なる雄大な自然景観を有しています。その優れた景観価値から、国の文化財保護制度において極めて評価の高い「特別名勝」に指定されており、日本を代表する景勝地の一つに位置付けられています。さらに、昇仙峡を中心に展開してきた水晶産出と信仰、技術、産業の歴史は、「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～」というストーリーとして日本遺産に認定され、自然と人の営みが重なり合う文化的価値も高く評価されています。

溪谷は四季折々の表情が魅力で、春から初夏にかけては新緑が清流と岩肌を彩り、秋には紅葉が溪谷全体を染め上げ、多くの来訪者を魅了します。溪谷奥には修験道や山岳信仰の霊山である金峰山がそびえ、その信仰の拠点として金櫻神社が鎮座し、古くから水晶や山の神への信仰が受け継がれてきました。昇仙峡を代表する見どころである仙娥滝は、高さ約30メートルを誇る豪快な滝で、四季や天候によって異なる表情を見せ、奇岩群とともに溪谷美を象徴する存在です。また、この地域ではかつて水晶が盛んに産出され、磨きや加工の高度な技術が育まれ、それが現在の甲府を中心とした宝飾産業という地場産業へと発展してきました。こうした歴史と自然を立体的に楽しめる施設として昇仙峡ロープウェイがあり、山頂展望台からは溪谷や南アルプス、条件が良ければ富士山まで見渡すことができます。近年は、溪谷沿いに地元食材を生かしたカフェや飲食店、クラフトや宝飾に触れられる新しい店舗も増え、自然景観だけでなく、滞在型で楽しめる観光地としての魅力も高まっています。



■御嶽昇仙峡の紅葉



■昇仙峡ロープウェイ



■仙娥滝



■金峰山

② 信玄の湯 湯村温泉

「信玄の湯 湯村温泉」は、弘法大師（空海）が杖で地を突いて湧出させたと伝わる開湯伝説に始まり、1200年以上の歴史を有する本市を代表する温泉街で、泉質はアルカリ性単純温泉を中心に、神経痛や筋肉痛、疲労回復、冷え性などに効果があるとされ、古くから人々が心身を癒やし、湯に浸かりながら語り、交流する場として親しまれてきました。戦国時代には武田信玄公が合戦の傷を癒やした「隠し湯」とも伝えられ、武将の湯治文化とも深く結びついています。

また、近代以降は多くの文豪に愛され、太宰治が療養・滞在し作品の構想を練った地として知られるほか、周辺には文学碑や記念館、寺社など、温泉とともに育まれてきた歴史・文化資源が点在しています。

湯村温泉の周辺には、緑豊かな湯村山や公園、スポーツ施設なども整い、温泉でくつろぐだけでなく、散策、スポーツ、文化施設の見学など、多様な過ごし方ができる点も魅力です。

近年では民間事業者を中心に宿泊施設や飲食店、交流拠点のリニューアルや再編といった再開発が進められており、これにより景観や回遊性の向上、滞在しやすい受入環境の整備が進むことで、若い世代や観光客の新たな来訪を促し、温泉街における賑わい創出や滞在時間の延伸、ひいては地域経済や交流の活性化につながることが期待されています。



■数々の伝説が受け継がれる温泉街



■良質な温泉



■湯村山ののろし台

③ 帯那地域

帯那地域は、市街地から近く、甲府盆地を見渡せる山々が広がるエリアです。千代田湖での釣りや、和田峠・八王子山からの展望、創作の森おびなでのキャンプ、全国から根強いファンが参加するトレイルランニングや武田の杜の森林セラピー、和田峠からの夜景など、自然を身近に楽しめる環境が整っています。

市街地からのアクセスが良く、散策やハイキング、展望を気軽に楽しむことができ、自然を感じながら、本市の風景に触れられる点も特徴です。

このように本地域は、市街地のすぐそばで自然と眺望、アウトドア体験を楽しめる「市街地周辺の憩いの場」として位置付けられます。



■武田の杜トレイルランニングレース



中心エリア

歴史に触れながら

まち歩きや賑わいを楽しむエリア

■夜の小江戸甲府花小路

中心エリアは、甲府駅を中心に城跡や商店街、公共施設などが集積し、歴史的な空間と現代の暮らしが重なり合う本市の中心となるエリアです。

武田氏ゆかりの史跡や城下町の面影を残すまちなみを背景に、博物館や文化施設、商店・飲食店があり、日常生活と歴史・文化が身近に感じられます。

近年は公民が連携し、まちなかで居心地のいい場所をつくる取組などが進められており、来訪者と市民が共に過ごせる場としての魅力も高まっています。

このように中心エリアは、本市の歴史を土台としながら、暮らし・交流・賑わいが展開される都市観光の拠点として位置付けられます。

主な観光資源

武田神社・信玄ミュージアム
甲州夢小路
舞鶴城公園（甲府城跡）
こうふ亀屋座・小江戸甲府花小路
山梨ジュエリーミュージアム
印傳博物館

甲斐善光寺
かいてらす（山梨県地場産業センター）
山梨県立美術館
遊亀公園附属動物園

① 武田氏ゆかりの地

武田氏館跡や城跡、寺社など、本市の成り立ちを今に伝える史跡が集積します。戦国時代には政治・軍事の拠点として機能し、城下町甲府の基盤が形成されてきました。

現在、史跡武田氏館跡周辺の復元整備が進められているほか、武田神社に隣接する信玄ミュージアムでは武田家の歴史を学び、体感することができます。



■武田神社

② 駅周辺・まちなか

国指定の史跡である舞鶴城公園（甲府城跡）や世界に誇る甲府ジュエリーの魅力を紹介する山梨ジュエリーミュージアム、城下町の雰囲気を感じることができる飲食店等が立ち並ぶ甲州夢小路や小江戸甲府花小路、昔甲府に実在した芝居小屋をイメージしたこうふ亀屋座、地元色豊かな飲食店が集まる甲府ぐるめ横丁やちようちん横丁といったスポットにより、飲食や買い物、まち歩きを楽しむことができます。



■こうふ亀屋座



■舞鶴城公園（甲府城跡）

③ 山梨県立美術館・甲斐善光寺など

このほかにも本エリアには、ミレーの美術館として親しまれている山梨県立美術館や、令和9年に御開帳を迎える甲斐善光寺、子どもの遊び場として人気の愛宕山こどもの国、令和9年度にリニューアルオープンを予定している遊亀公園附属動物園などがあり、芸術・歴史に触れる体験や家族でのレジャーなど、目的に応じた多様な過ごし方ができます。



■山梨県立美術館（芸術の森公園）



■甲斐善光寺

南部エリア



豊富な農作物に恵まれ、
スポーツを楽しみ、歴史・文化に触れられるエリア

■小瀬スポーツ公園

南部エリアは、肥沃な土壌環境や全国有数の恵まれた日照時間により、小曲のイチゴや中道のスイートコーンなど高品質な果樹や野菜が栽培され、直売所での購入や収穫体験も楽しめます。

また、エリア内にある小瀬スポーツ公園には、プロサッカーチーム「ヴァンフォーレ甲府」のホームスタジアムに加え、多種多様な競技に対応できる多くの施設が整っていることから、年間を通じて県内外から多くのアスリートやサポーターが来訪しています。その他にも、週末には多くのイベント等に人が集まり、家族の憩いの場にもなっています。

さらに、中道地域の曾根丘陵には東日本最大級の古墳と、江戸時代に静岡からの海産物を運んだ重要な古道である中道往還があります。

今後は、リニア山梨県駅（仮称）の開業により、人の流れの拡大が期待されることから、当エリアが新たな観光のハブとして必要な機能を備えるよう検討を進めます。

主な観光資源

高品質な農産物・観光果樹園
風土記の丘農産物直売所
小瀬スポーツ公園
曾根丘陵公園
山梨県立考古博物館
中道往還

令和2年度に策定した第3次甲府市観光振興基本計画（以下「前計画」という。）では、5つの基本方針のもと、22の施策に取り組んできました。

本計画の策定に当たり、施策ごとの庁内での達成度の評価や市内の観光関連事業者（以下「事業者」という）の評価による満足度、数値目標の達成状況等を踏まえ、前計画の取組の進捗を振り返ります。

(1) 前計画の実施状況の評価

庁内での施策ごとの達成度を定性的に評価するとともに、事業者評価により施策ごとの満足度を把握した結果（図12）、庁内評価は概ね3.0前後で「達成できている」が、「施策⑫ Withコロナを踏まえた観光地づくりの推進」は低い評価となりました。また、事業者の満足度は2.0～2.8程度と、庁内評価を下回る傾向が見られました。

これは、施策自体は一定の進展があったものの、その内容や効果が事業者に十分共有されず、事業効果の実感につながっていなかったことが一因と考えられます。

特に、二次交通、インバウンド対応、情報発信の分野では評価の差が大きく、施策の狙いや成果が十分伝わっていない状況がうかがえます。

一方、歴史・文化資源や地域資源を活用した施策については、庁内評価と事業者評価が比較的近く、施策の方向性に一定の共通認識が形成されていたと捉えられます。

今後は事業者の視点をより重視し、施策の目的や効果を分かりやすく共有するとともに、成果を実感できる形での施策展開を進めていくことが重要です。

図 12 前計画における施策の達成度及び満足度評価

基本方針	施策	達成度の評価 (庁内)	満足度の評価 (事業者)
魅力ある 観光地づくりの推進	① 湯村温泉郷の活性化に向けた取組	3.0	2.2
	② 昇仙峡の周遊観光の促進	3.0	2.3
	③ 甲府城跡周辺の受入環境の整備	3.0	2.8
	④ 信玄公生誕500年関連事業の推進	3.0	2.8
	⑤ 観光コンテンツの造成	3.0	2.5
	⑥ 都市観光の推進	2.9	2.4
自然・歴史など 地域資源の活用	⑦ 日本遺産を活用した昇仙峡地域の活性化への取組	3.0	2.8
	⑧ 甲府名山や甲武信ユネスコエコパークの活用	3.0	2.1
	⑨ 武田氏の歴史を活用した観光推進	3.0	2.7
	⑩ 地域資源の活用	2.9	2.6
	⑪ 地場産品等を活用した誘客と消費の促進	2.8	2.7
安全・安心で快適な 観光地づくりの推進	⑫ Withコロナを踏まえた観光地づくりの推進	1.7	2.4
	⑬ 観光客のおもてなしの推進	3.0	2.6
	⑭ 二次交通の利用促進と新たな交通手段などの研究	2.7	2.1
	⑮ インバウンド推進に向けた取組とユニバーサルツーリズムの推進	2.9	2.0
	⑯ 観光関連施設の維持管理	2.8	2.0
効果的な情報発信	⑰ ターゲットに合わせた積極的・効果的な情報発信	3.0	2.4
	⑱ 多言語での情報発信	3.0	2.3
	⑲ フィルムコミッションの活用	3.0	2.2
観光推進体制 の強化	⑳ 観光関連団体及び事業者等との連携強化	2.7	2.6
	㉑ 産学官の連携強化	3.0	2.6
	㉒ 広域連携の推進	3.0	2.4

※点数は平均値

庁内での達成度の評価		事業者による満足度	
達成度／点	評価の基準	満足度／点	評価の基準
5	120％（予想を大幅に上回って達成）	5	満足
4	100～120％未満（目標を上回って達成）	4	やや満足
3	80～100％未満（目標通り達成）	3	普通
2	0～80％未満（目標の一部が未達成）	2	やや不満
1	0％（未達成・未着手）	1	不満
0	0％（評価不可）	0	わからない

(2) 数値目標の評価

前計画では、①観光入込客数、②日本人宿泊者、③外国人宿泊者、④観光消費額を数値目標として定めましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、前計画の策定時においては目標項目のみを設定していました。

その後、感染症の収束を期に、コロナ禍前の令和元年を基準年として（観光消費額を除く）、令和5年度に目標値を定めました。

① 観光入込客数

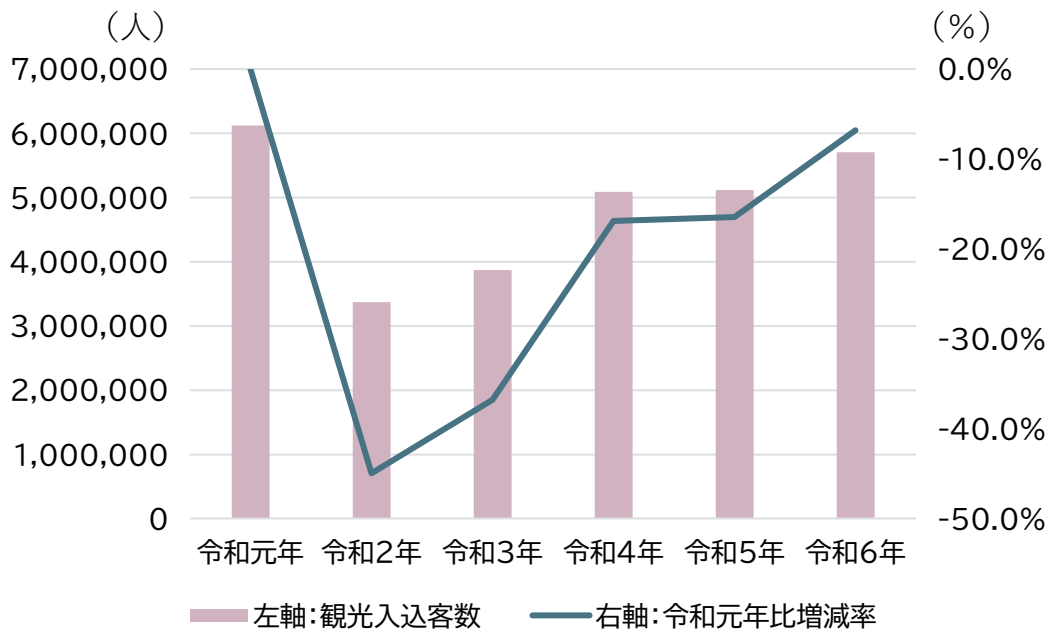
観光入込客数は、令和2年に新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少し、令和元年比で45.0%の減少となりました。その後は回復基調に転じ、令和3年には緩やかな増加が見られ、令和4年以降は回復が一層進展しました。

令和6年では観光入込客数は5,706,302人となり、目標値に対する達成度は93.2%に達しています。これは、コロナ禍以前の水準まであと一步の水準であり、観光需要が着実に回復していることを示しています。

↓基準年						
年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
目標値に対する達成度 (%)	—	55.0	63.2	83.1	83.6	93.2
観光入込客数 (人)	6,121,992	3,369,368	3,870,939	5,089,053	5,115,733	5,706,302
令和元年比増減率 (%)	—	-45.0	-36.8	-16.9	-16.4	-6.8

◆観光入込客数の目標値：6,121,992人(令和元年同数値)

図 13 本市の観光入込客数



出典：市提供資料

② 日本人宿泊者数

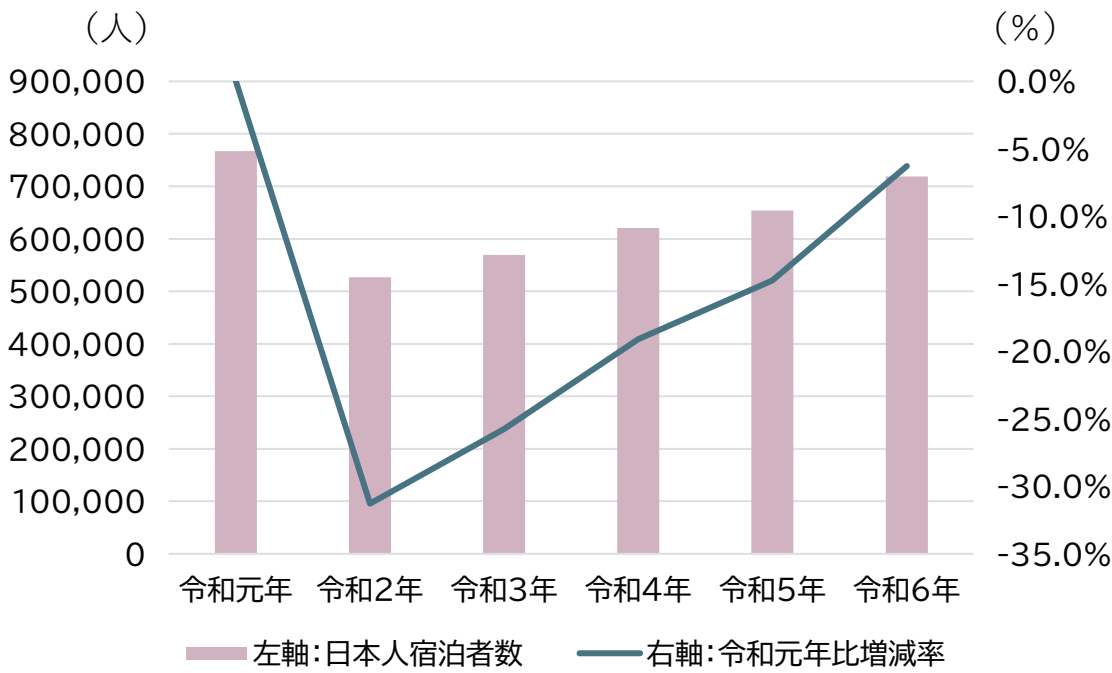
日本人宿泊者数は令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向が続き、令和3年及び令和4年においても回復は限定的なものとなりました。令和5年には一定の持ち直しが見られたものの、令和元年の水準には依然として及ばない状況が続いています。

令和6年における日本人宿泊者数は718,973人となり、令和元年比では6.3%の減少となりましたが、減少幅は年々縮小しており、回復基調にあることが確認されます。また、目標値に対する達成度は89.3%となり、概ね計画水準に近い水準まで回復しています。

↓基準年						
年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
目標値に対する達成度 (%)	—	65.4	70.7	77.1	81.2	89.3
日本人宿泊者数 (人)	767,034	527,023	569,530	620,604	653,910	718,973
令和元年比増減率 (%)	—	-31.3	-25.7	-19.1	-14.7	-6.3

◆日本人宿泊者数の目標値：805,386人(令和元年比105%)

図 14 本市の日本人宿泊者数



出典：市提供資料

③ 外国人宿泊者数

外国人宿泊者数は令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大や水際対策の影響を受け、大幅に減少しました。特に令和3年には令和元年比で97.8%の減少となり、極めて厳しい状況となりました。

その後、入国制限の緩和や国際的な人の往来の再開に伴い、令和4年以降は回復基調に転じ、令和5年には15,475人、令和6年には24,658人まで回復しています。しかしながら、令和6年においても令和元年実績(57,139人)と比較すると56.8%の減少となっており、依然としてコロナ禍前の水準には達していません。

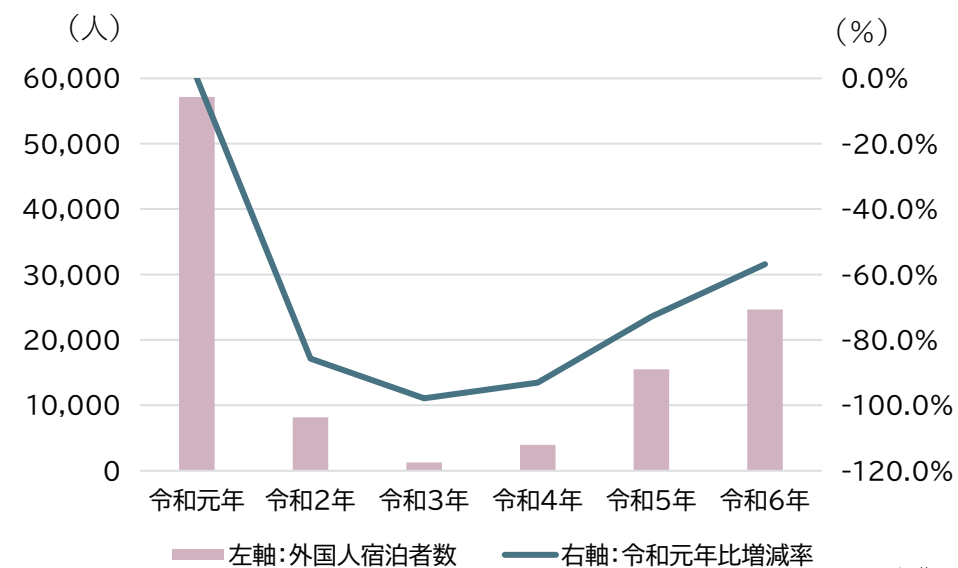
また、目標値に対する達成度は令和6年で39.2%にとどまっており、外国人宿泊者数の回復に向けた取組が必要となっています。

↓基準年

年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
目標値に対する達成度(%)	—	13.0	2.0	6.3	24.6	39.2
外国人宿泊者数(人)	57,139	8,163	1,238	3,958	15,475	24,658
令和元年比増減率(%)	—	-85.7	-97.8	-93.1	-79.2	-56.8

◆外国人宿泊者数の目標値：62,853人(令和元年比110%)

図15 本市の外国人宿泊者数



出典：市提供資料

④ 観光消費額

年	令和5年	令和6年
目標値に対する達成度(%)	69.3	68.0
観光消費額(円)	8,758	8,585

◆観光消費額の目標値：12,633円

令和6年の観光客一人当たりの消費額は8,585円で、目標値に対する達成度は68.0%になっており、観光入込客数の回復が進む中で、滞在時間の延伸や宿泊旅行の割合を増やすなど、消費単価の向上を図ることが必要です。

03 | データでみる甲府市の現状

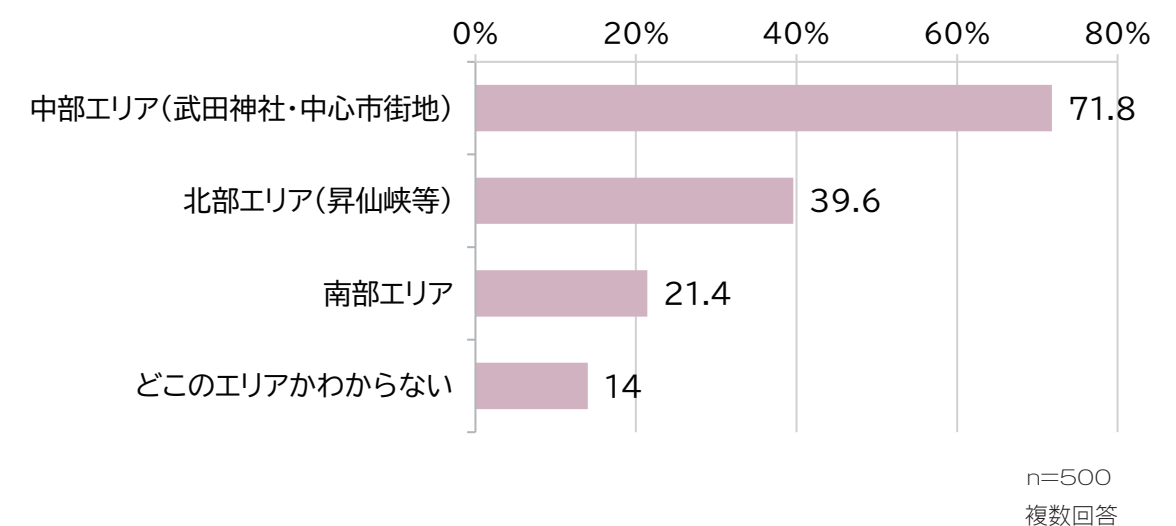
(1) 観光客アンケート調査

本市の観光の現況を把握するため、来訪者・非来訪者に対し、アンケート調査を実施しました。結果の概要は次の通りです。

① エリアごとの来訪者の割合

「中心エリア(武田神社・中心市街地)」を訪問した人が71.8%で最も多く、次いで「北部エリア(昇仙峡等)」となっています。

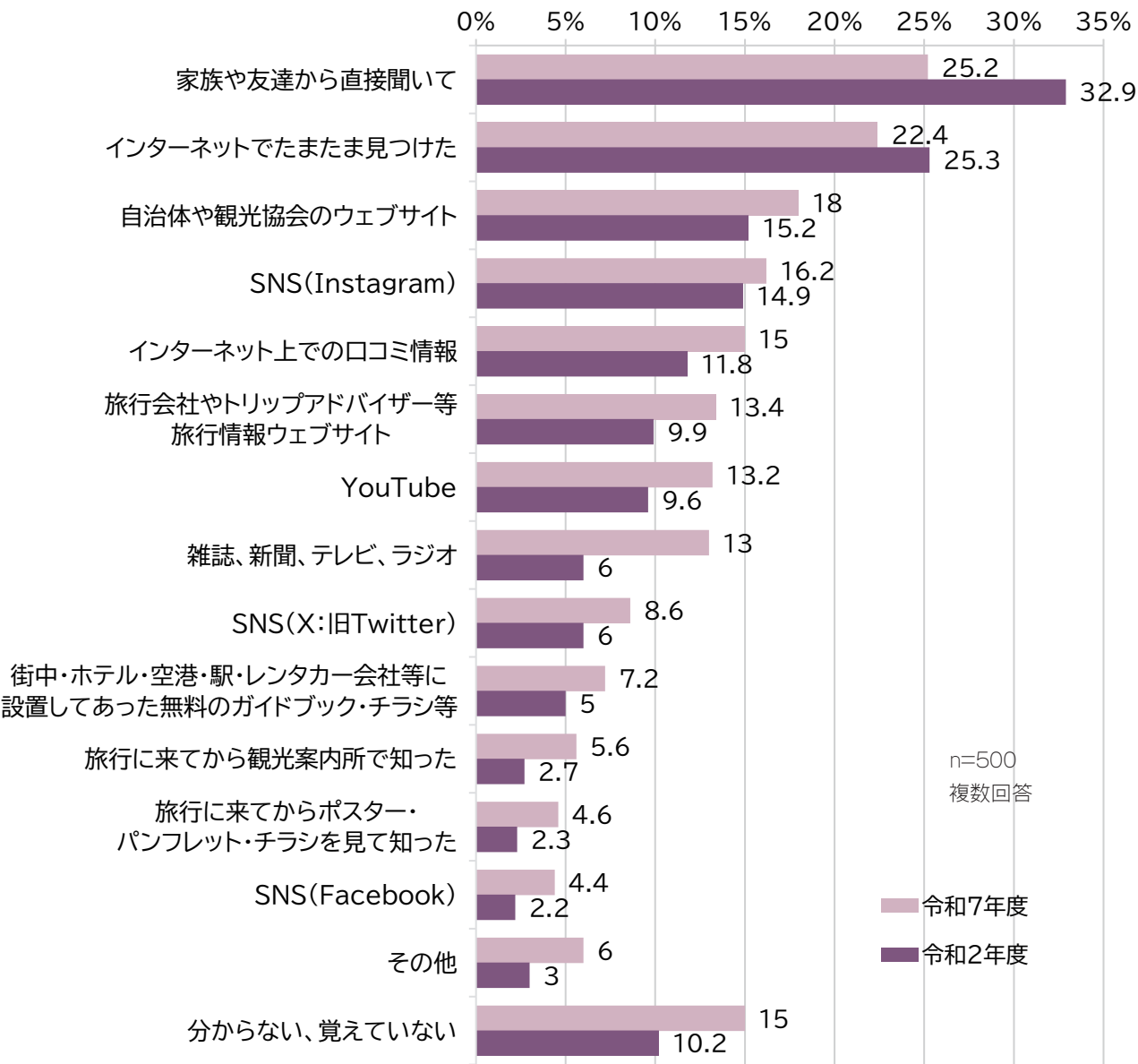
図16 エリアごとの来訪者の割合



② 旅行時の情報入手方法（来訪者）

甲府に来た事がある人の情報入手方法は、「家族や友達から直接聞いて」が25.2%で最も多く、次いで「インターネットでたまたま見つけた」が22.4%と多くなっています。前計画策定時（令和2年度）における調査と比較すると、ウェブサイトやSNS、口コミなどで情報を得て来訪する人の割合が増えています。

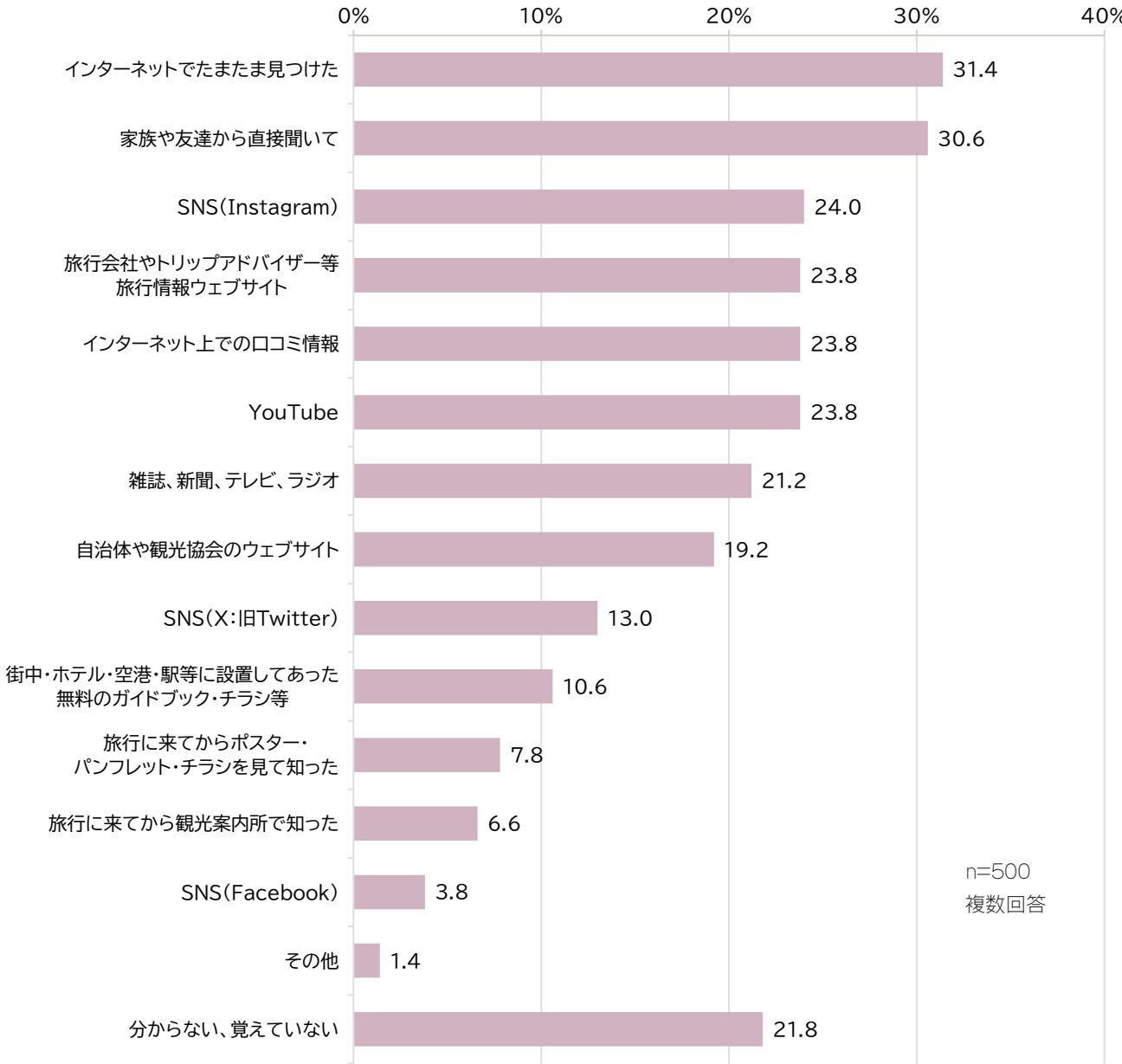
図 17 旅行時の情報入手方法



③ 旅行時の情報入手方法（非来訪者）

今まで甲府に来たことがない人の旅行時の情報入手方法は、「インターネットでたまたま見つけた」が31.4%で最も多く、次いで「家族や友達から直接聞いて」が30.6%と多くなっています。

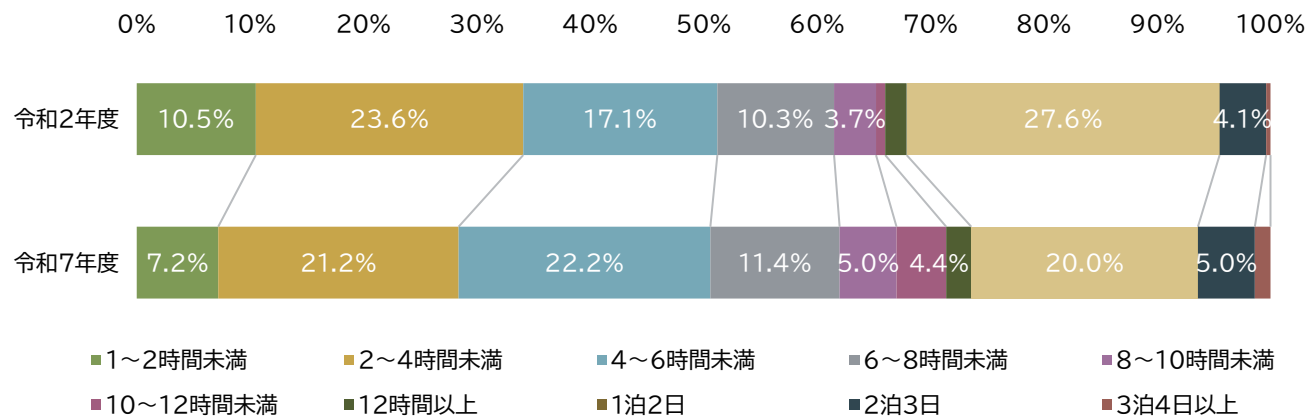
図 18 旅行時の情報入手方法



④ 甲府を旅行した際の滞在時間（来訪者）

6時間未満の滞在が半数を占めており、宿泊を伴う旅行は全体の26.4%で、日帰り旅行の傾向が強くなっています。前計画策定時（令和2年度）と比較すると、宿泊を伴う旅行の割合が減り、半日から1日程度滞在する割合が増えています。

図 19 甲府を旅行した際の滞在時間

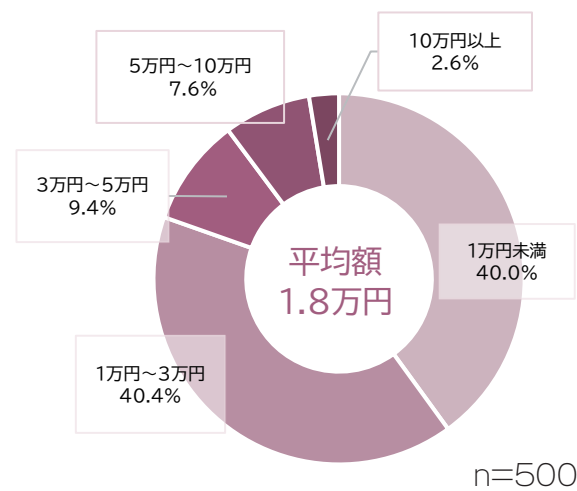


n=500

⑤ 旅行一回に使った消費額（来訪者・非来訪者）

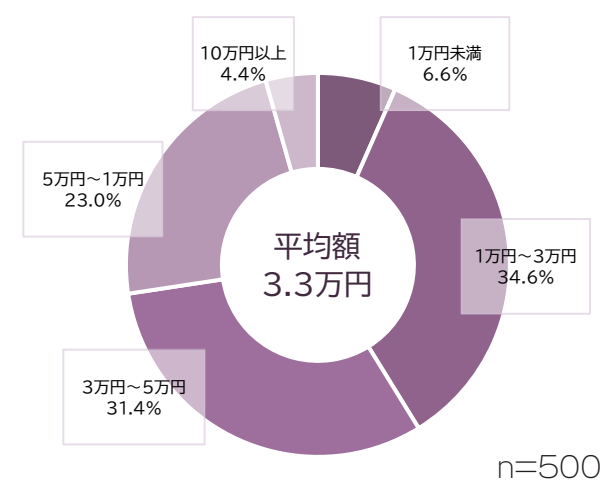
本市来訪者は「1万円未満」「1万円～3万円」の割合が共に4割を占めており、平均で1.8万円なのに対して、非来訪者は「1万円～3万円」「3万円～5万円」の割合が共に3割を超えており、平均で3.3万円となっています。本市来訪者の消費金額が非来訪者と比べ少ないのは、宿泊を伴わない訪問割合が多いことが一因と考えられます。

図 20 消費額（来訪者）



n=500

図 21 消費額（非来訪者）

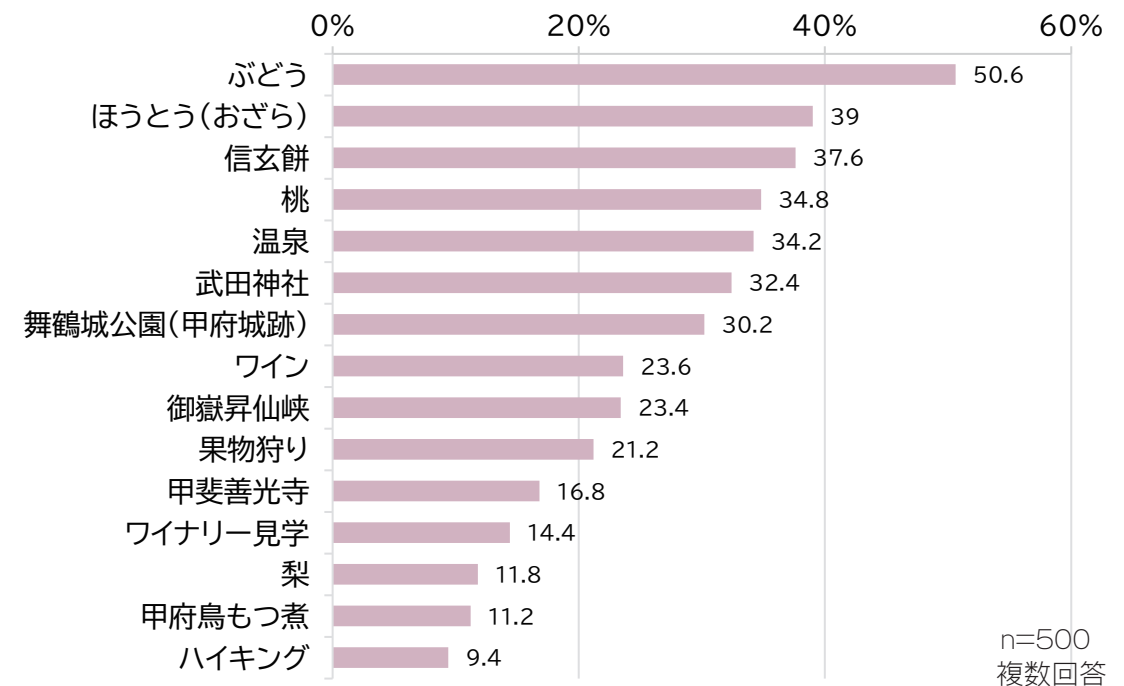


n=500

⑥ 甲府を旅先に決めた理由（来訪者）

旅先に決めた理由で上位にあるのが、「ぶどう」が50.6%で最も多く、次いで「ほうとう」「信玄餅」「桃」と食に関することが上位を占めています。

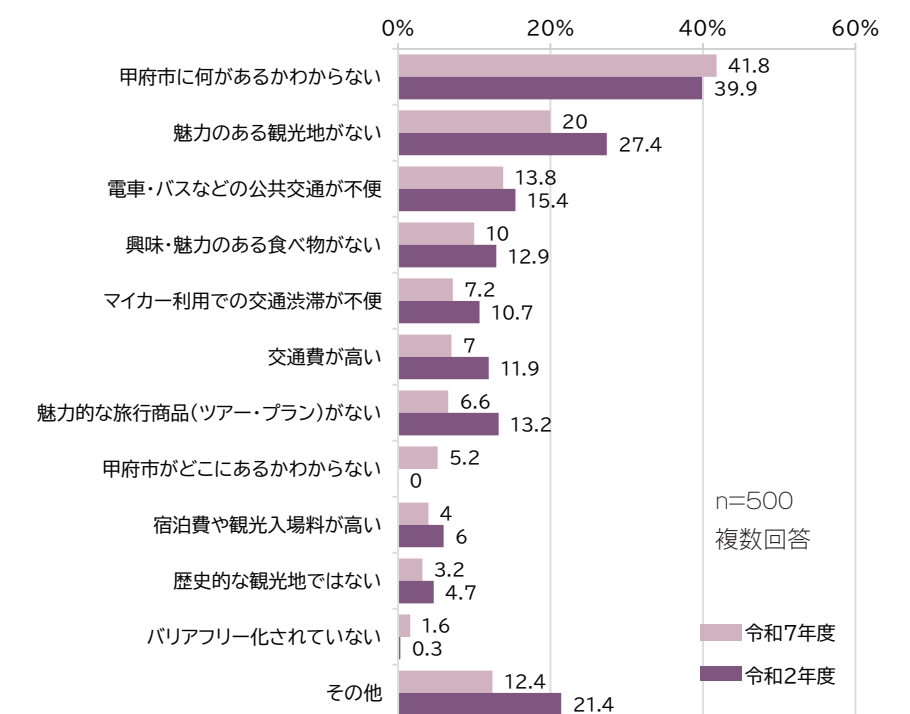
図 22 甲府を旅先に決めた理由

n=500
複数回答

⑦ 甲府を旅先に選ばなかった理由（非来訪者）

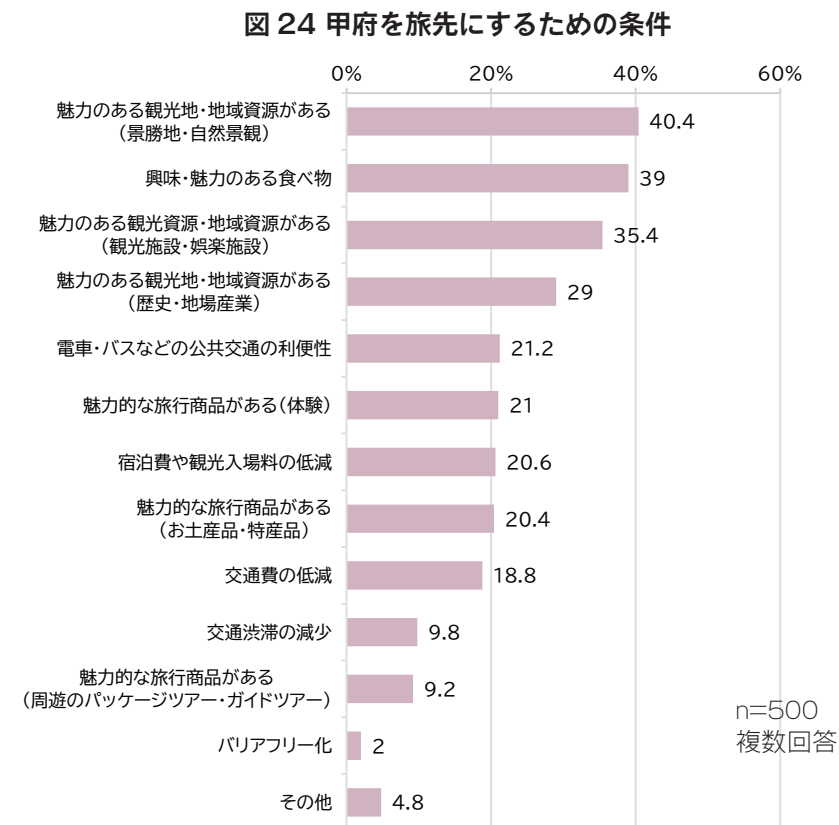
「何があるのかわからない」が41.8%で最も多くなっています。先の情報の入手方法（図18）では「インターネットでたまたま見つけた」が最も多く、次いで「家族や友達から直接聞いて」が多いことから、旅先の選択肢に入りにくい状況がうかがえます。前計画策定時（令和2年度）と比較すると、多くの項目において比率が下がっています。

図 23 甲府を旅先に選ばなかった理由

n=500
複数回答

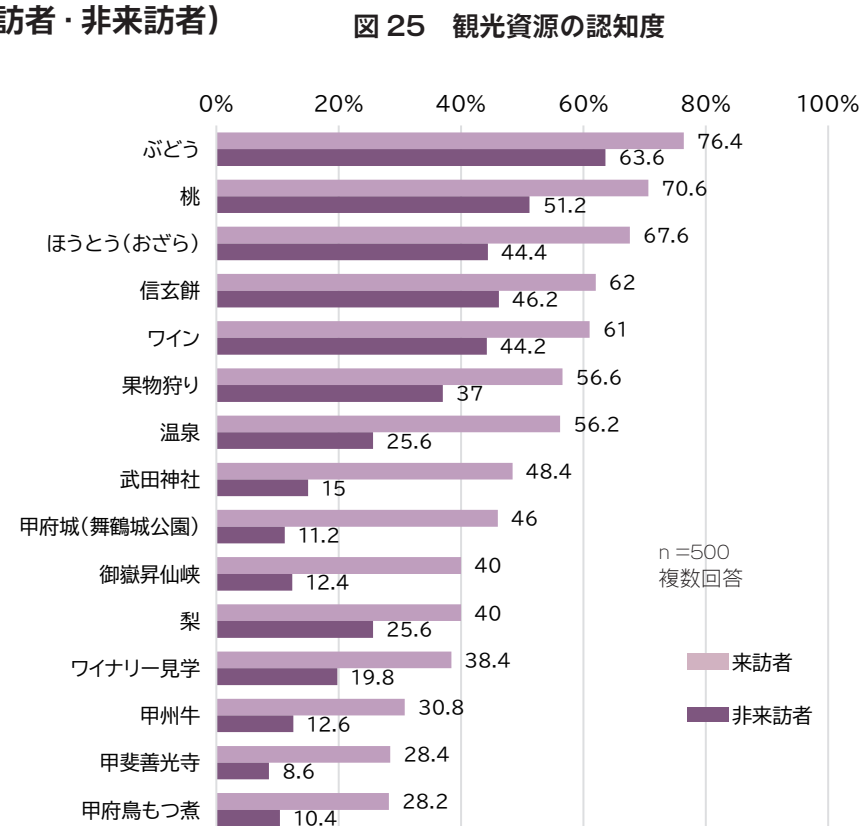
⑧ 甲府を旅先にするための条件（非来訪者）

今まで甲府に来たことのない人が、甲府を旅先にするための条件として、「魅力ある観光地・地域資源」が40.4%で最も多く、次いで「興味・魅力のある食べ物」となっています。



⑨ 甲府の観光資源の認知度（来訪者・非来訪者）

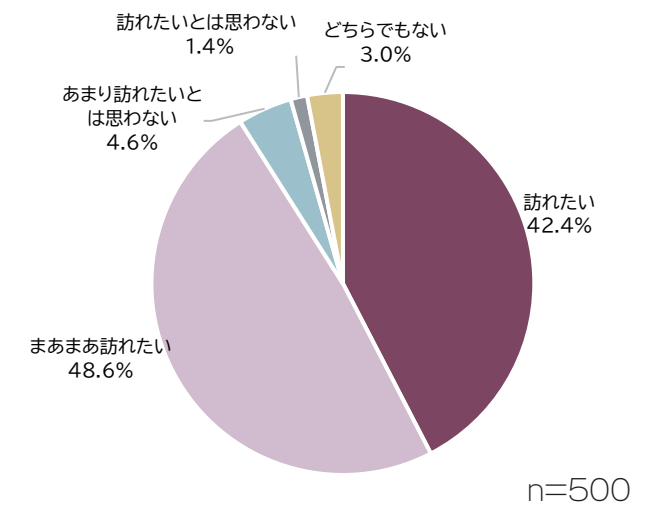
来訪者においては認知度が高いものは食資源が多く、食べるだけでなく、果物狩りやワイナリー見学など食を通じた観光コンテンツも高くなっています。非来訪者においても食資源の認知度は高くなっています。



⑩ もう一度甲府に来たいと思う人の割合（来訪者）

もう一度甲府に来たいと思う人の割合は、「訪れたい」「まあまあ訪れたい」の回答が91.0%を占め、来訪者においては再来が期待されます。

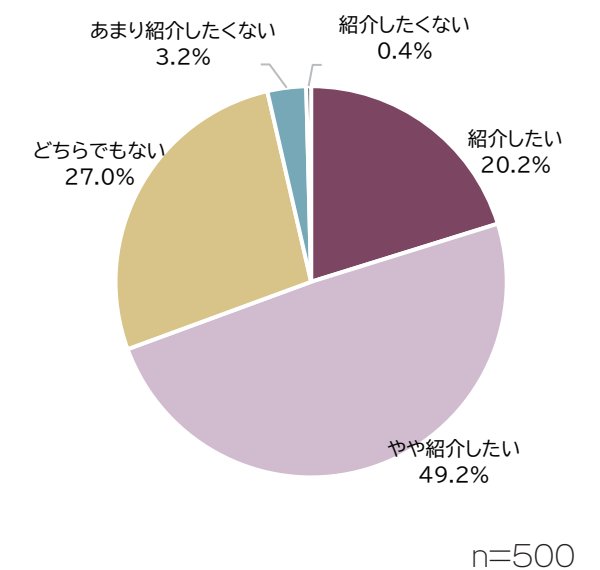
図 26 再来訪意向



⑪ 甲府を旅先として紹介したいと思う人の割合（来訪者）

甲府を旅先として紹介したいと思う人の割合については、「紹介したい」「やや紹介したい」の回答が69.4%を占めています。

図 27 紹介意向

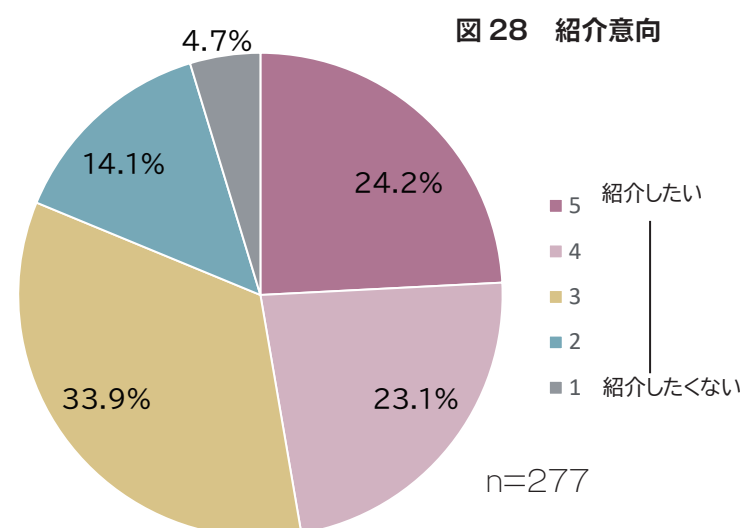


(2) 市民アンケート調査

令和7年度に実施した市民アンケート調査において、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりに向け、市民の本市の観光に対する認識や、紹介意向、本市の観光振興に対する期待、不安等を把握しました。

① 市民が甲府を観光地として紹介したい割合

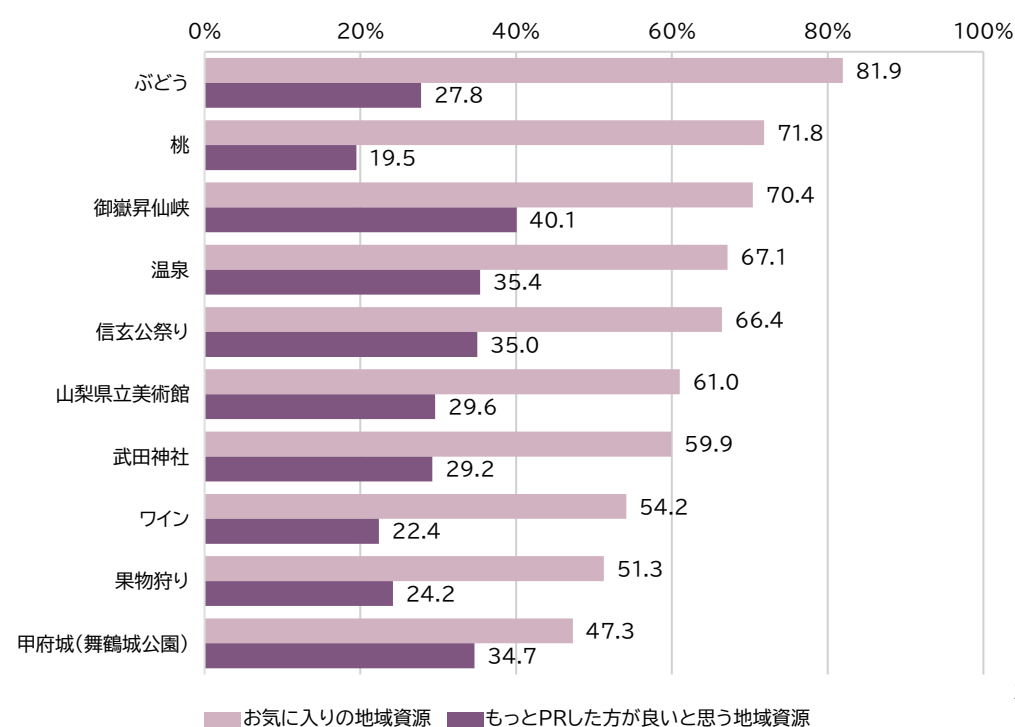
強い紹介意向のある市民は24.2%に留まり、「4」及び「5」の紹介意向を合わせても47.3%と半数に届かない結果となりました。



② 市民が考える「お気に入りの地域資源」と「もっとPRした方が良いと思う地域資源」

市民が考える「お気に入りの地域資源」は「ぶどう」が81.9%と最も多く、次いで「桃」「御嶽昇仙峡」「温泉」「信玄公祭り」となっています。

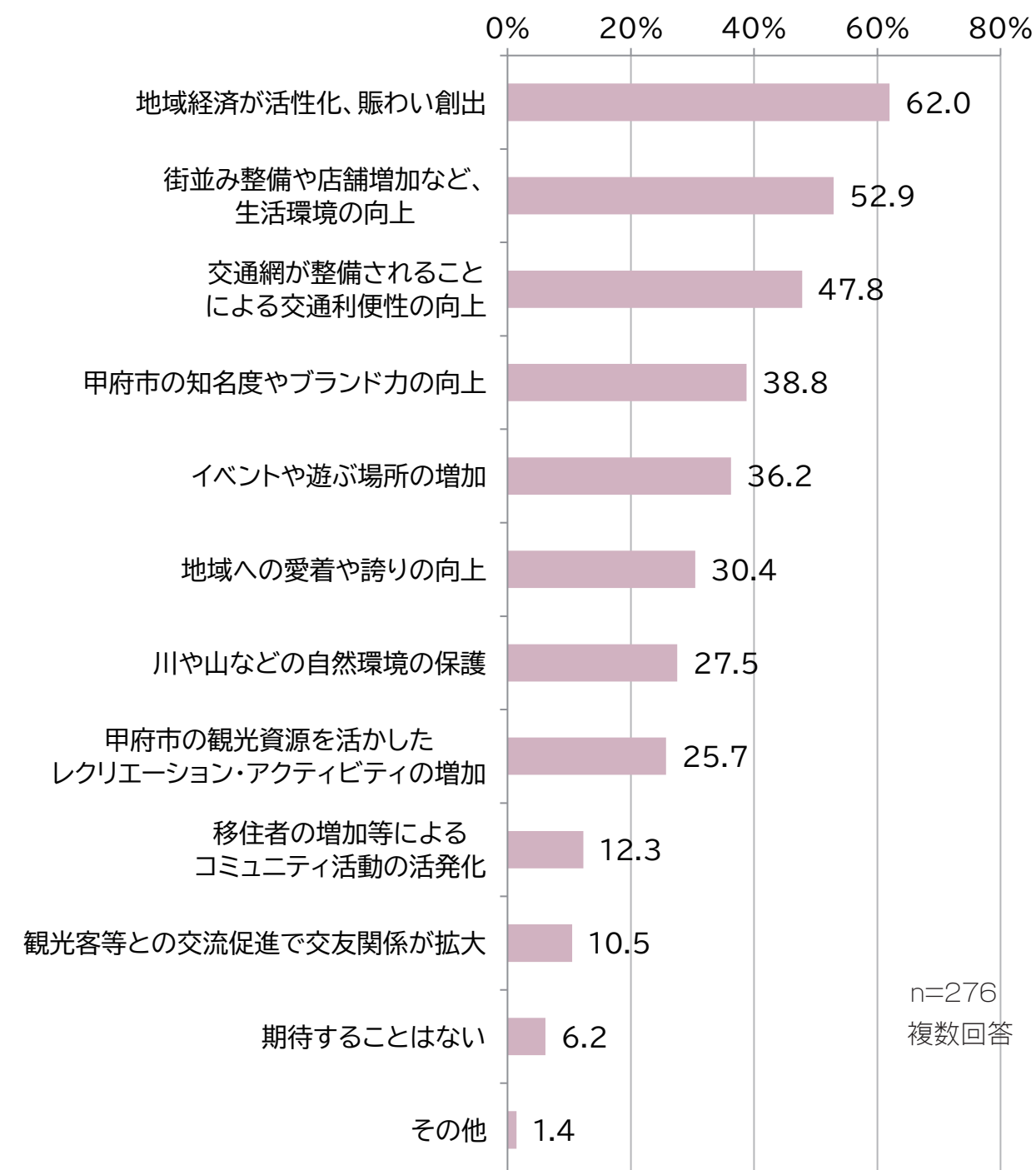
図 29 「お気に入りの地域資源」と「もっとPRした方が良いと思う地域資源」



③ 観光で地域が活性化することによって期待すること(市民)

期待が高いのは、「地域経済の活性化、賑わい創出」が62.0%と最も多く、次いで「街並み整備や店舗増加など、生活環境の向上」が52.9%、「交通網が整備されることによる交通利便性の向上」が47.8%となっています。

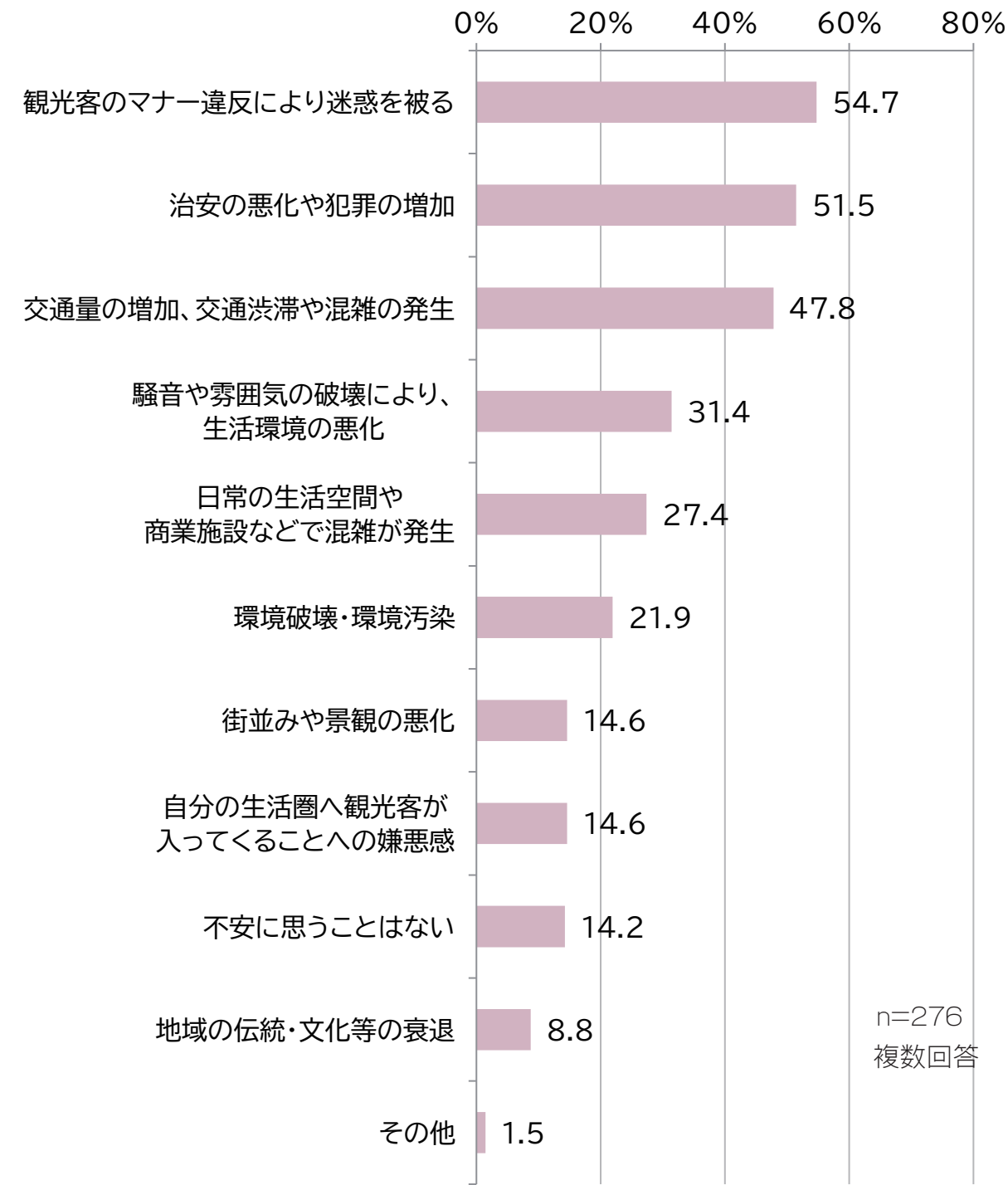
図 30 観光で地域が活性化することによって期待すること



④ 観光で地域が活性化することによって不安に思うこと（市民）

市民が今後の観光の活性化によって感じている不安は、「観光客のマナー違反により迷惑を被る」が54.7%と最も多く、次いで「治安の悪化や犯罪の増加」が51.5%、「交通量の増加、交通渋滞や混雑の発生」が47.8%であり、市民が不安を抱くことのない取組が求められます。

図 31 観光で地域が活性化することによって不安に思うこと



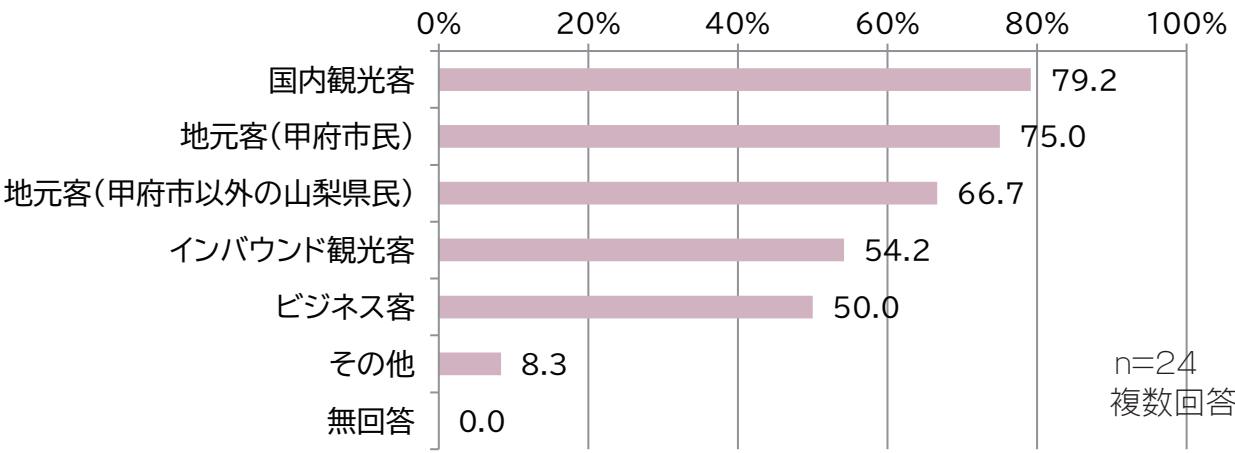
(3) 事業者アンケート調査

市内の観光関連事業者に対して観光への取組や現状などについてアンケート調査を行いました。

① 顧客層

顧客層は「国内観光客」が79.2%と最も多く、次いで「地元客（甲府市民）」が75.0%、「地元客（甲府市以外の山梨県民）」が66.7%、「インバウンド観光客」が54.2%となっています。

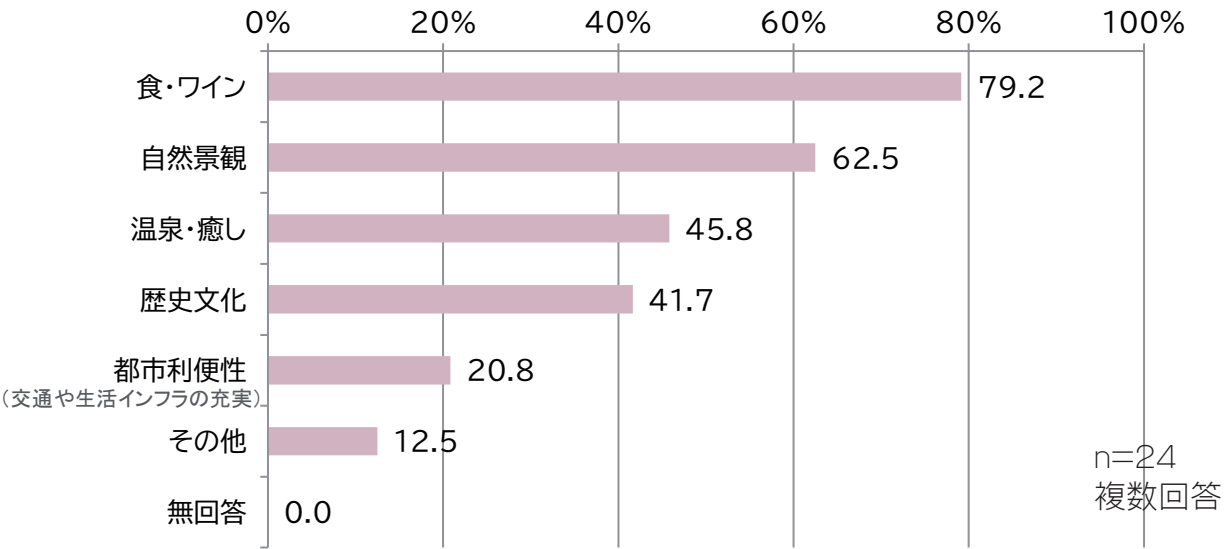
図 32 顧客層



② 事業者目線の本市の強み

事業者目線での本市の強みは「食・ワイン」が79.2%と最も多く、次いで「自然景観」が62.5%、「温泉・癒し」が45.8%、「歴史・文化」が41.7%となっています。

図 33 事業者目線の本市の強み



③ 事業者におけるインバウンドの受入環境整備状況と受入環境の課題

事業者におけるインバウンドの受入環境整備の状況(図34)については、「キャッシュレス決済」が58.3%と最も多く、次いで「多言語対応」が37.5%、「Wi-Fi通信」が33.3%、「特になし」が25.0%となっています。

インバウンド受入の課題(図35)については、「多言語対応」が41.7%と最も多く、次いで「交通アクセス・公共交通(二次交通)」が37.5%、「スタッフの語学対応力不足」「情報発信・マーケティング」「インバウンドの受入を考えていない・特に対応する予定はない」が29.2%となっています。

図34 事業者におけるインバウンドの受入環境整備状況

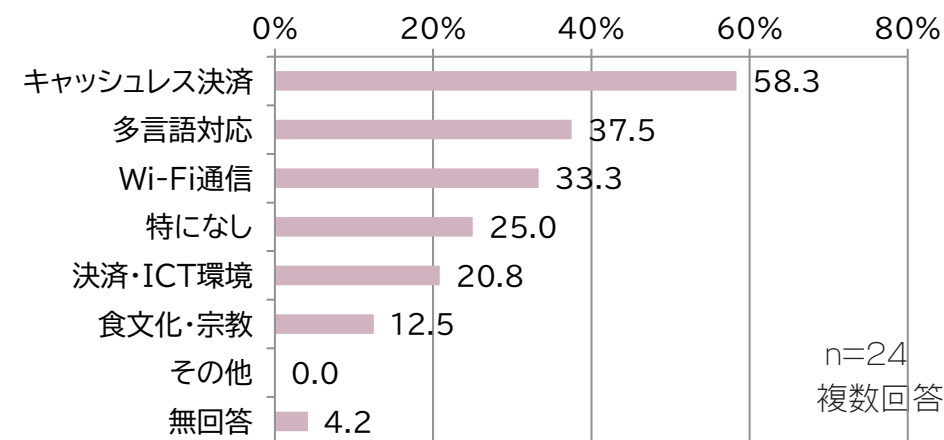
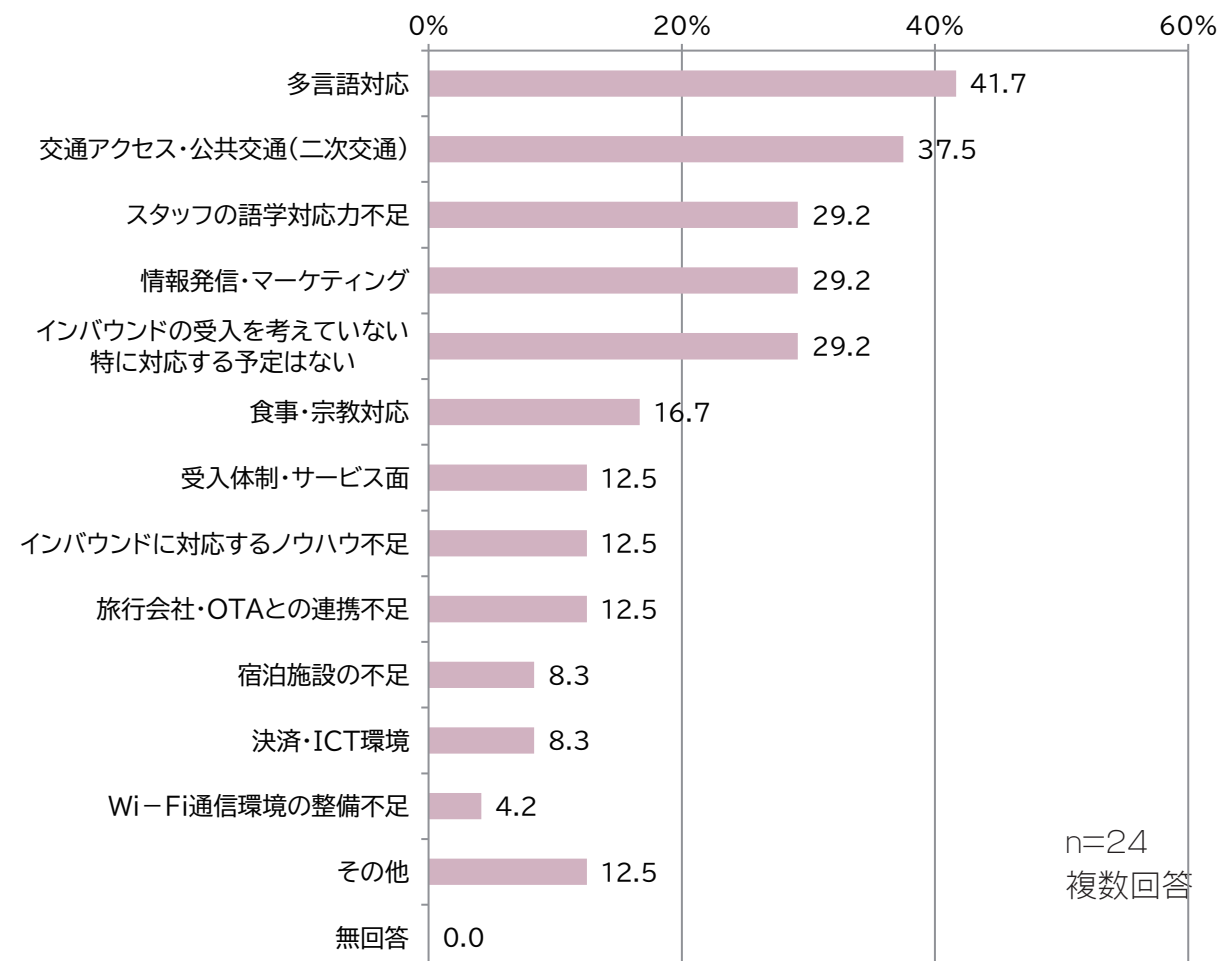


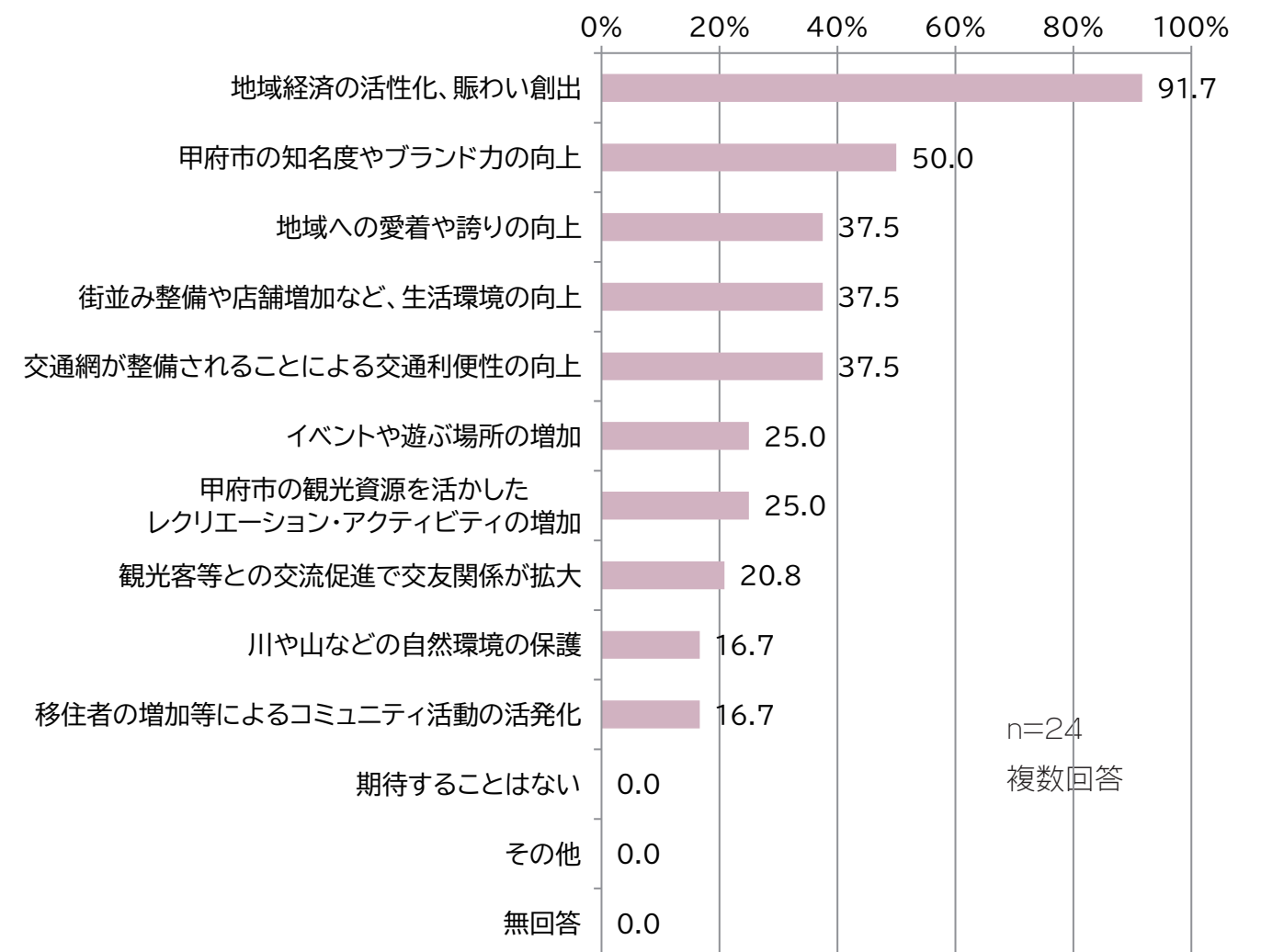
図35 事業者におけるインバウンドの受入環境の課題



④ 観光で地域が活性化することによって期待すること(事業者)

事業者が観光で地域が活性化することによって期待することは、「地域経済の活性化、賑わい創出」が91.7%と最も多く、次いで「甲府市の知名度やブランド力の向上」が50.0%、「地域への愛着や誇りの向上」「街並み整備や店舗増加など、生活環境の向上」「交通網が整備されることによる交通利便性の向上」が37.5%となっています。

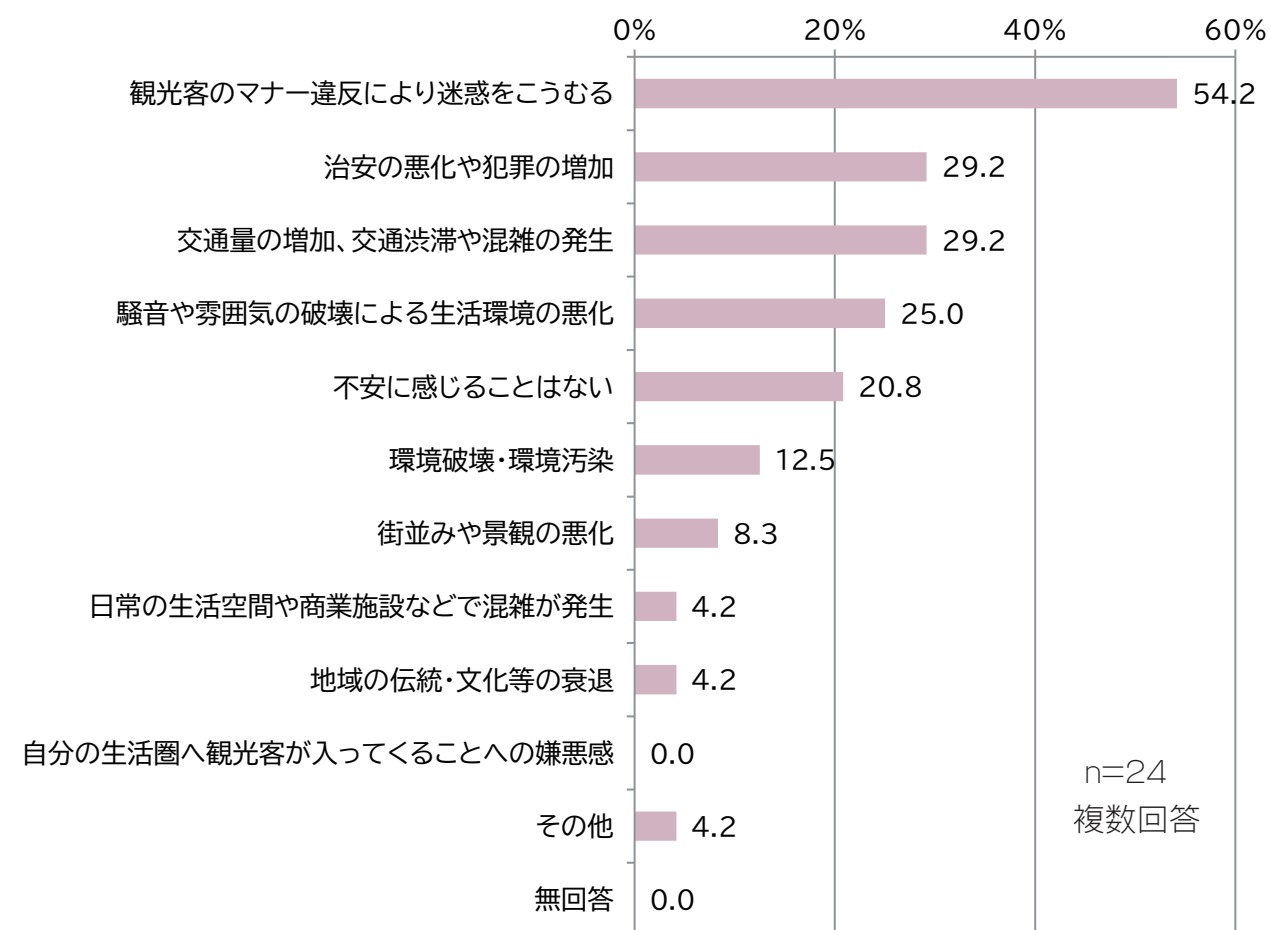
図36 観光で地域が活性化することによって期待すること



⑤ 観光で地域が活性化することによって不安に思うこと（事業者）

観光で地域が活性化することによって事業者が感じている不安は、「観光客のマナー違反により迷惑をこうむる」が54.2%と最も多く、次いで「治安の悪化や犯罪の増加」「交通量の増加、交通渋滞や混雑の発生」が29.2 %、「騒音や雰囲気の破壊による生活環境の悪化」が25.0%となっています。

図 37 観光で地域が活性化することによって不安に思うこと



04 | 現状からみる課題

アンケート調査の結果等により、本市の観光における主な課題を次のとおり整理しました。

1. 観光消費額が伸び悩む

甲府市の観光客の観光消費額が伸び悩んでいます。首都圏からのアクセスの良さから多くの来訪はあるものの、日帰り観光客の割合が高く、観光地での滞在時間が比較的短いことから、魅力的な滞在型コンテンツの充実や周辺エリアを含む周遊の促進などが必要です。

2. 情報発信の効果が限定的

甲府市の観光の認知度が高くなく、旅行先の選択肢に上がらないことが課題です。外国人宿泊者数もコロナ禍前の状況には達しておらず、情報発信が十分ではないと考えられます。多様な情報発信は行われていますが、実際の周遊・消費・宿泊行動につなげるための取組と訴求力を高めた発信が必要です。

3. 市民のこうふ愛の更なる醸成

自分たちのまちをもっと紹介したいと考える市民が約半数にとどまることから、観光による賑わいの創出や地域経済を活性化させるために、こうふ愛の更なる醸成が必要です。

4. 二次交通が不足している

観光地へのアクセスや観光地間を結ぶ公共交通の利便性に課題があり、市民からも観光をきっかけとした移動利便性の向上が期待されています。今後はリニア山梨県駅（仮称）の開業により人流増加が見込まれるため、各観光地を結ぶ二次交通の充実が必要です。